



南浦涼介

第3回
ユニット1 外国人児童生徒教育の現状と課題を知る③

外国人児童生徒の
歴史的社会的背景を知る

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
ユニット1 現状と課題を知り 「外国人の語学教育」 ではないことを知る			ユニット2 子どもたちを知り ことばと文化の 多様性に対する対応の ありかたを検討する			ユニット3 教育方法を知り 具体的な授業の発想や思想 具体的なスキルを検討する				ユニット4 学校づくりを知り 多文化共生の地域や学校 をどのように構築する かを検討する			まとめ
概要	受入 方法	歴史と 移動	言語 社会	バイリ ンガル	対応 方法	教科と 日本語	初期 指導	テーマ 学習	インクル ーシブ	学外 連携	共生 学校	学校 変革	

ユニット1 の目標

私たちの学習の対象を「外国人に対する語学教育」ではなく
「実はすべての人がその当事者なんじゃない？」にする

今日は、「移動する人」という視点から、それを検討する

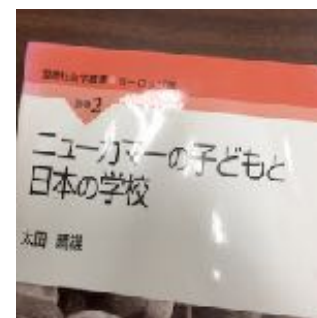
ここにあげているのは、数々の「外国人児童生徒等教育」の関連本です。
ところが、その対象となっている子どもたちの「呼称」はなぜかまちまちです。



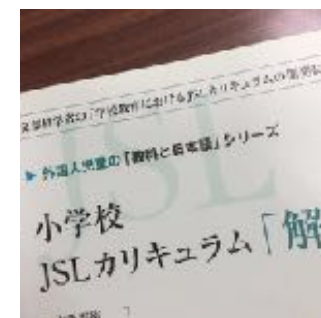
外国人児童生徒



外国籍児童生徒

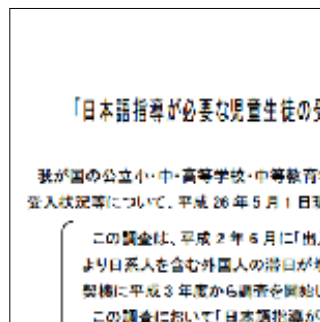


ニューカマー
の子ども

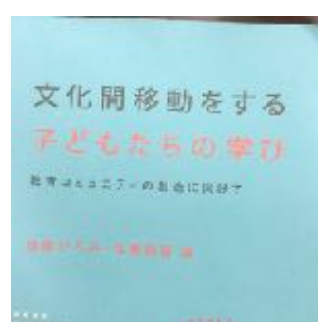


JSL児童生徒

Japanese as a Second
Language
(第二言語としての日本語)
の略です



日本語指導が必要な
児童生徒



文化間移動をする
子どもたち



年少者

もともと日本語教育は「留学生」のような成人が対象だったことから、その対比で「年少

外国につながる子どもたち

海外ルーツの子どもたち

移動する子どもたち

言語的文化的に多様な子どもたち

Q

2人の「かつて外国人児童生徒」だった人のストーリーを読む

ストーリー1



NAMさん

神戸市生まれ。両親はベトナム出身で1980年代に「ベトナム難民」として来日。神戸でであったラップをきっかけに、「オレの歌」など、ベトナムと日本の間で生きる自分を歌う。

ストーリー2



コウケンテツさん

父は大阪生まれの韓国ソウル育ち。母は韓国済州島出身。韓国人両親のもとで大阪で生まれる。母であり料理研究家である母から料理を習い、現在料理家として活躍している。

読書の視点

①

NAMさんとコウケンテツさんは「日本人」なのか「ベトナム人／韓国人」なのかどちらなのだろうか？ それはどのような根拠で？

読書の視点

②

NAMさんとコウケンテツさんは「移動する子どもたち」だと言えるだろうか？ どのような点で？

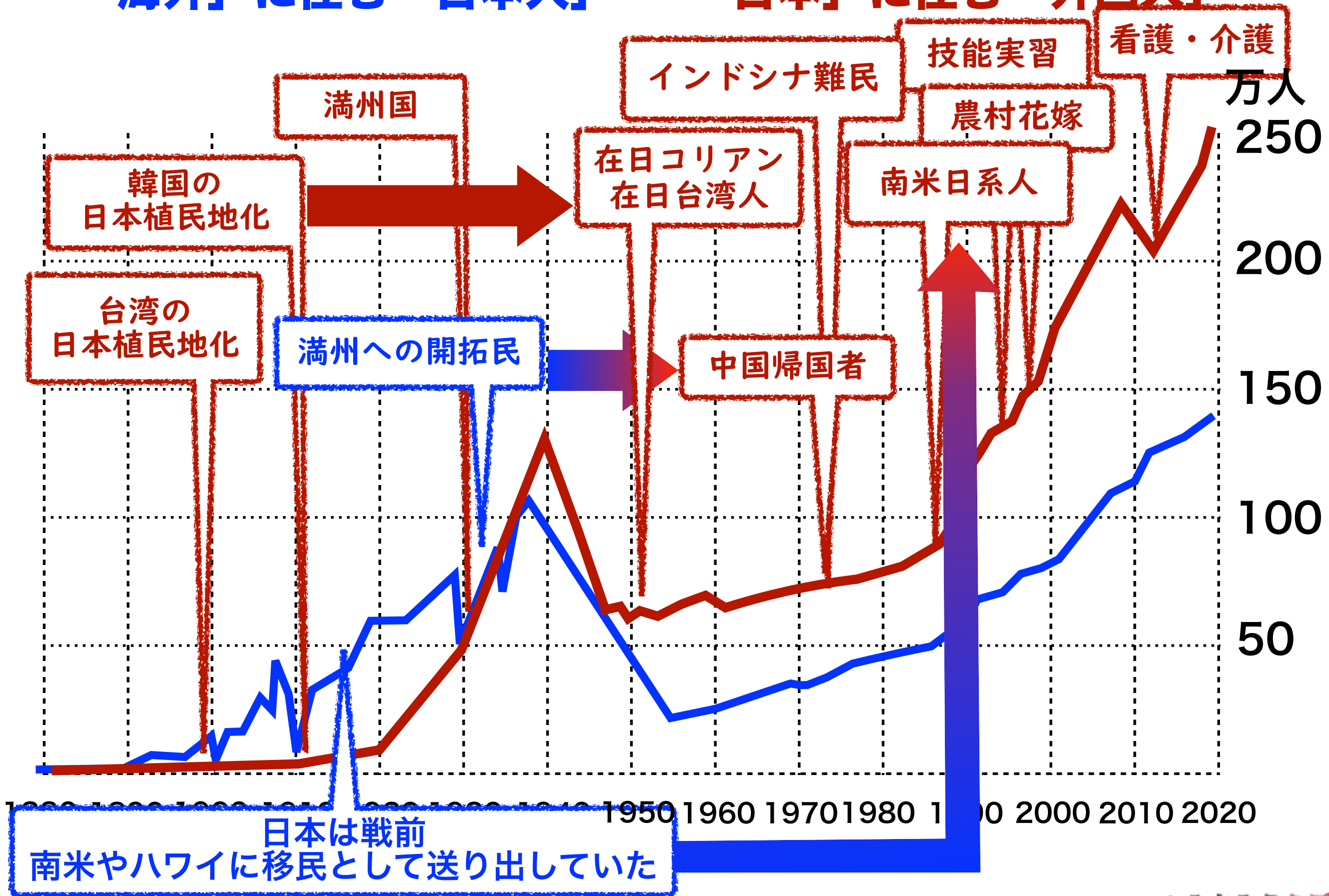
読んだ人のライフストーリー（人生の物語）を年表化しよう

	生まれる前？	○学生 ○歳	○学生 ○歳	○学生 ○歳
エピソード の見出し				
場所				
ことば ○○語				
ことば ○○語				
出会い				
その他				

「移民の歴史」から考える「外国人児童生徒」

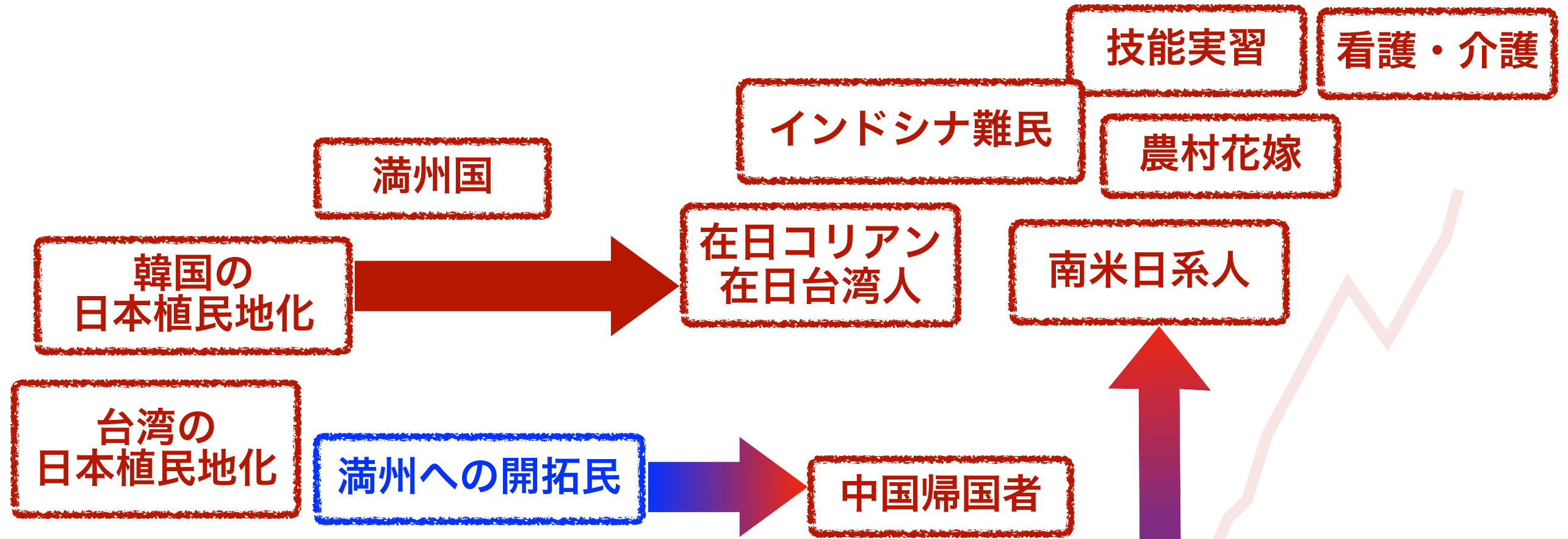
「海外」に住む「日本人」

「日本」に住む「外国人」



「海外」に住む「日本人」

「日本」に住む「外国人」



パターン1
日本の近代の歴史的
背景によるもの

パターン2
労働・働くこと
によるもの

パターン3
日本の人口減少
によるもの

日本は戦前
南米やハワイに移民として送り出していた



我々は労働力を呼んだが
やって来たのは人間だった

マックス・フリッシュ（スイスの作家）

パターン1
日本の近代の歴史的
背景によるもの

パターン2
労働・働くこと
によるもの

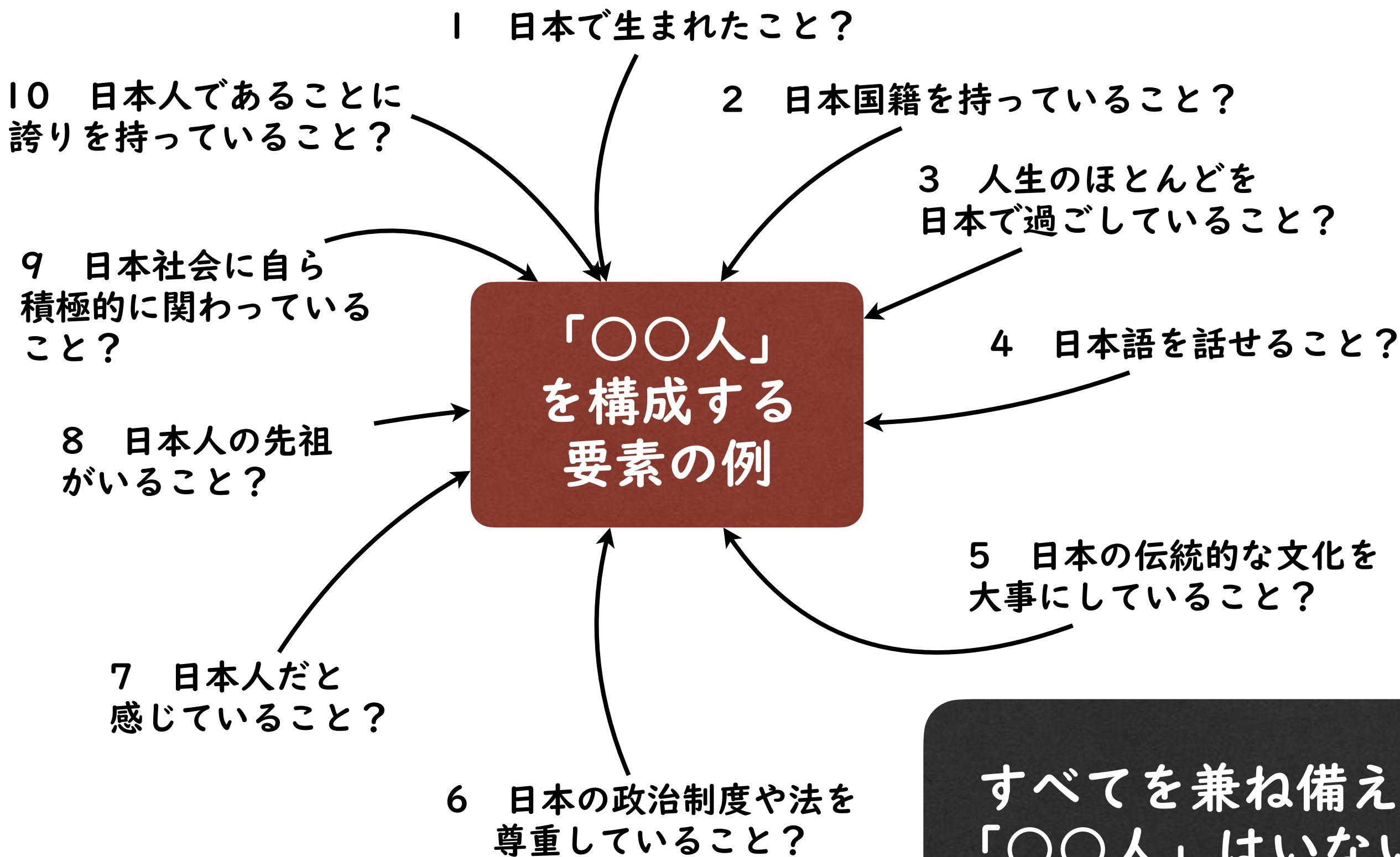
パターン3
日本の人口減少
によるもの

しかも子どもたちは、親の都合で「移動させられて来た」

読書の視点

①

NAMさんとコウケンテツさんは
「日本人」なのか「ベトナム人／韓国人」なのか
どちらなのだろうか？ それはどのような根拠で？



すべてを兼ね備えた
「〇〇人」はいない！

読書の視点

①

NAMさんとコウケンテツさんは
「日本人」なのか「ベトナム人／韓国人」なのか
どちらなのだろうか？ それはどのような根拠で？

「日本人」の条件

1. 日本で生まれたこと
2. 日本国籍を持っていること
3. 人生のほとんどの時間を日本で過ごしていること
4. 日本語を話せること
5. 日本の伝統的な文化を大事にすること
6. 日本の政治制度や法を尊重していること
7. 日本人だと感じていること
8. 日本人の先祖がいること
9. 日本社会にみずから積極的に関わること
10. 日本国民であることに誇りをもっていること

「東京人」の条件

1. 東京で生まれたこと
2. 都内の住民票を持っていること
3. 人生のほとんどの時間を東京で過ごしていること
4. 東京の言葉を話せること
5. 東京の伝統的な文化を大事にすること
6. 東京の政治制度や法を尊重していること
7. 東京人だと感じていること
8. 東京の人の先祖がいること
9. 東京の地域社会にみずから積極的に関わること
10. 東京都民であることに誇りをもっていること

「江戸っ子」の条件

1. 江戸で生まれたこと
2. 江戸在住許可を持っていること
3. 人生のほとんどの時間を江戸で過ごしていること
4. 江戸の言葉を話せること
5. 江戸の伝統的な文化を大事にすること
6. 江戸の政治制度や法を尊重していること
7. 江戸っ子と感じていること
8. 江戸っ子の先祖がいること
9. 江戸の地域社会にみずから積極的に関わること
10. 江戸っ子であることに誇りをもっていること

どうして「東京人」は「日本人」ほどに
条件がきつくないのだろうか？

どうして「江戸っ子」条件はきついのに
「東京人」条件は緩いのだろうか？

読書の視点

②

NAMさんとコウケンテツさんは
「移動する子どもたち」だと言えるだろうか？
どのような点で？

「移動する」というのは決して直接的な
国境を超えた外国から日本への移動だけではない！

①空間を移動する

国境の移動
文化の異なる家庭と学校の
間の移動
親戚や家族の場所の移動
など

③言語を移動する

家庭と学校で異なる言語を
移動
人生の中での言語の移動
その場で言語を移動して考
える など

②時間の中で移動する

子どもの家族の歴史の中での移動
将来における移動 など

③教育の場を移動する

異なる教育文化の間の移動、
異なる教育カリキュラムの間の移動 など

「外国人」への教育

かわいそうな人・外の人への
補償

「移動する人々」への教育

「みんな移動してるよね」

「移動しないことが前提」
の教育から
「移動することが前提」
の教育へ

「移動する」=問題
ではなく
「移動する」=「力」「可
能性」につながる
(もちろんケアも必要)